

2017 年(平成
29 年)4 月号

一般社団法人沖縄国際マングローブ協会

第 5 回マングローブ講座

2017 年 3 月 28 日(火)名護市屋我地島にて



講義中の質問

質問 1、メヒルギの胎生種子は干潟に落下して刺さりますか

回答 刺さる確率はかなり低い。

質問 2、干潟での活動は自然にインパクトを与えないのか

回答 入域者の多数による。

質問 3、行ってみたいマングローブ林はどこですか

回答 西表島

事前の質問

○沖縄県内の天然のマングローブ林はどれぐらいありますか

○逆に植栽された人工林はどれぐらいですか

○マングローブ林の抱える問題点は何がありますか

○ヒルギの黄色くなった葉は海水の塩分を排出していると聞いたことがありますが本当ですか

○ヒルギの種類別の棲み分けはありますか

答

○マングローブ協会調べでは、沖縄本島では 23.5HA、西表島で 424.6HA、沖縄県で 532.7HA (1990 年)

○那覇市漫湖は植栽によって増えた。面積は 10HA(2000 年)その後半分伐採された。

○マングローブ林が増えて地質が固くなり底生生物の種類に変化が起きた。その結果干潟が減って、水鳥が来なくなったという指摘がある。マングローブ林を取り除いて元に戻るか実証実験中

○黄色の葉と緑色の葉と若葉の成分を比較して黄色の葉に塩分が多い。

○マングローブの種類によって耐塩性の違いがありヒルギダマシが前面に分布してオヒルギが陸側に分布する。また、光の要求度が違い、メヒルギは光の要求度が高いためにオヒルギの林の中では成長できない。オヒルギはメヒルギの林の中でも成長できるので、メヒルギの林からオヒルギの林に遷移する。